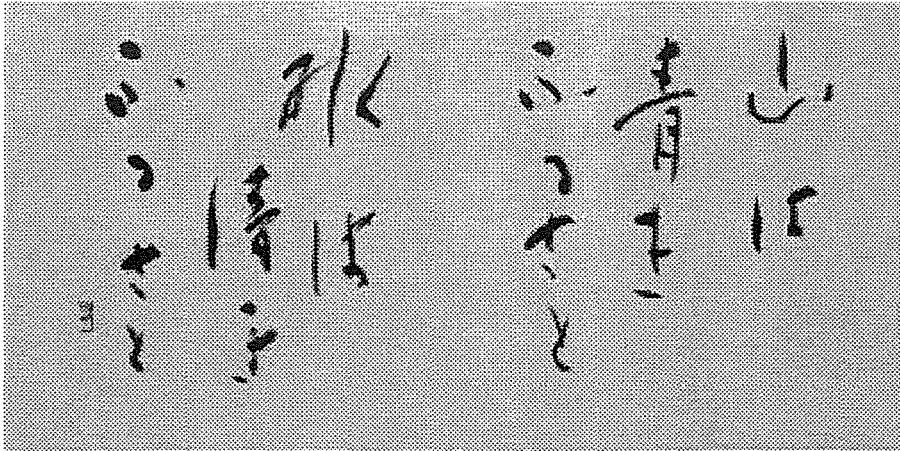


鳥取大学附属図書館公開展示会

ふるさとを書く

展示作品目録



(写真は『ふるさと』住川英明 No.8)

会 場：鳥取大学附属図書館玄関ホール

日 時：平成13年3月1日～3月20日 9:00～17:00

01 青山 浩之 横浜国立大学

カバさんのあくび

34. 0×69. 0

のんきなカバさん ねむそなカバさん お顔いっぱい口あけて あああああの 大あくび
歌うような運筆と線のタッチ、また歌詞のイメージを大切に。「あ」の繰り返して「大あくび」を表現。

02 赤平 和順(泰処) 大正大学

げんげ草

34. 5×68. 0

ねんねのお里のげんげ草 ぼらぼら子牛も遊んでる 牧場の牧場のげんげ草誰かが遠くで呼
んでいる

口ずさむように明るく素直な書を心に抱いて運筆した。

03 五十嵐康子 麻布学園

小ぎつね

34. 0×69. 0

小ぎつねこんこん 山のなか 山のなか 草の実つぶして お化粧したり もみじのかんざ
し つげのくし

リズムカルな曲に合わせて作品もまとめようと試みました。幼い頃から好きな童謡の一つです。

04 浦口 新吾(牧游) 福岡市立西陵高等学校

ふるさと

34. 5×68. 0

故里 こころごしをはたして いつの日にか帰らん

故里への思いを淡墨で、自分の志をしっかりと果たすんだという意志を濃墨で描写しようところみた。

05 木本 滋久(南邨) 高野山大学

ふるさと

35. 0×70. 0

兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川 夢は今もめぐりて 忘れがたきふるさと

わかりやすく読みやすい表現方法を試みました。すっきりした感じができるように心がけました。

06 小木 良一(太法) 帝京大学

きんたろう

28. 6×41. 3

きんたろう まさかりかついできんたろう くまにまたがりおうまのけいこ ハイシイドウ
ドウ ハイドウドウ ハイシイドウドウ ハイドウドウ

07 貞政 研司(少登) 鶴見大学

もみじ

68. 0×36. 5

もみじ 秋の夕日に照る山もみじ 濃いも薄いも数ある中に 松をいろどる楓や蔦は 山の
ふもとの裾模様

童謡を歌うような気持で、明るく朗らかな風趣を心掛けて書いてみた。

08 住川 英明 鳥取大学

ふるさと

34. 0×69. 0

山は青きふるさと 水は清きふるさと

ふるさとに寄せる思いは複雑です。ふるさとを語ること=書くことの難しさを痛感しました。

09 塚本 宏(虚斎) 和洋女子大学

ささ舟

140. 0×35. 0

さす日の光や明らかに 小川の水はすきとおる

日本の自然の美しさを、淡墨と羊毛に託して表現した。ローマやロンドンやアムステルダムにもない日本の心を。

10 辻 尚子 四国大学

大河

68. 0×34. 0

大河よ無限に走れ 秋の日の照る國ばらを 海に入るなかれ

11 豊口 和士 東京学芸大学

さわさわさわさわ

45. 0×34. 0

さわさわさわさわ ごめのうた びっくりゆらゆら ちゃっぷりこ

詩文の持つ清涼な雰囲気を表わそうと思いましたが…。

12 中村 直之(閑葉) 元東京学芸大学

赤彦の歌

69. 0×34. 0

まかがやく夕焼空の下にして凍らんとする湖の静けさ

現代の書として漢字仮名交り書につき研究している。

13 長野 秀章(竹軒) 東京学芸大学

日の丸の旗

34. 5×68. 2

日の丸の旗 白地に赤く 日の丸染めて ああうつくしや 日本の旗は 朝日の昇る 勢い
見せて ああ勇ましや 日本の旗は

14 西野 義正(象山) 佛教大学

おぼろ月夜

135. 0×35. 0

菜の花畠に 入日薄れ 見わたす山の端 霞ふかし 春風そよぶく 空を見れば 夕月かかりて におい淡し

15 広瀬 裕之（舟雲） 武蔵野女子大学

おぼろ月夜

136. 0×34. 0

策の花島に 入日薄れ 見わたす山の端 霞ふかし

鳥取県に關係のある歌の一節を書く。春ののどかさとおおらかさを表現したかった。

16 前田舜次郎（次郎） 跡見学園女子大学

童謡・春が来た

34. 0×69. 0

春が来た 春が来た どこに来た 山に来た 里に来た 野にも来た

同じ字・句をいかに自然に変化させるかに留意した。

17 源川 進（彦峰） 二松学舎大学

青い貝がら白い貝がら

130. 0×35. 0

ろんろんろんろん 波のうた ひっそりゆらゆら ちゃぶりこ 青い貝がらねむって 青い
月夜にそまった

鳥取県は童謡・唱歌の作詞家が多く、今回はそれに依因んで早竹青秋作詞の童謡を書いた。その雰囲気表現できたと思う。

18 南 香織 徳島大学研究生

「風のアルバム」の一節

34. 0×69. 0

見知らぬ街の小さな駅で 見覚えのある風を見た

なつかしいと思う感情を飾らない言葉でつづったこの詩に共感をおぼえ、制作してみたくになりました。

19 吉澤 義和（翠亭） 文教大学

春が来た

34. 0×68. 5

春が来た どこに来た 山に来た 里に来た 野にも来た

仮名を漢字にどう調和させるかに意を払うとともに、繰り返しの表現が単調にならないように配慮した。

20 吉田 行雄（六嶺） 新潟大学（人文学部）

もみじ

34. 0×69. 0

溪の流れに散り浮くもみじ なみに揺られて離れて寄って 赤や黄色の色さまじまに 水の
上にも織る錦

字数が多いので、表現過多を避け、淡墨の味を生かしながら、静かな律動感を出したかった。